

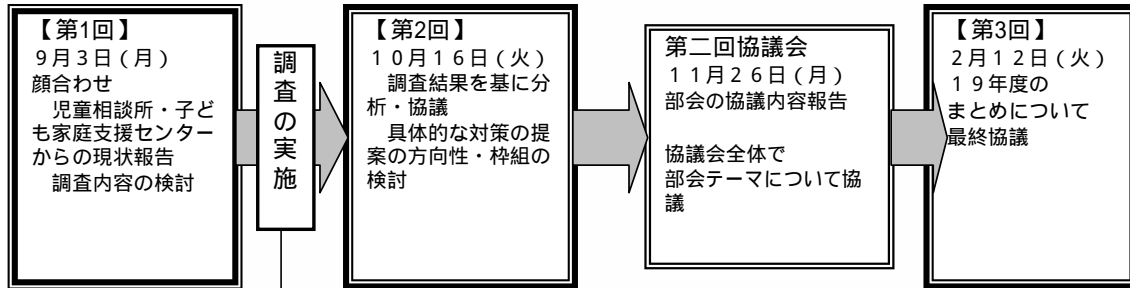
平成19年度 新宿区次世代育成協議会部会のまとめ

部会テーマ「子どもの虐待防止と地域の役割」

テーマの設定理由

近年の核家族化や孤立化による家族機能の低下から、養育者が抱える育児不安は大きくなっている。このような社会背景の中、家庭において適切な養育が受けられない子どもや、子どもの命まで脅かされる事例が増えてきている。そこで、区として、支援を必要とする子どもや家庭に対する体制を整備していく必要があると考え、既存のシステムを活かしながら、行政機関だけでなく、他機関や地域と連携した対策・体制の強化を図ることが必要であると考えた。また、児童虐待を予防するために、地域で何ができるのか検討する必要があると考えた。子どもの虐待とは何なのか、また、何故起きるのかを議論し、地域による虐待防止のための具体策を、第二期次世代育成協議会部会で検討すべき課題として設定した。

平成19年度 部会の流れ



アンケート調査の実施

対象：次世代育成協議会委員全員 **調査実施状況** 平成19年9月28日回収 41件に送付。28件から回答。

目的：それぞれの委員の児童虐待についての捉え方、また、どういう思いで地域での活動を行っているかなどを把握し、互いの認識を共有化し、調査結果を基に、「子どもの虐待防止」のために何ができるのか、実効性のある提案へと議論を進めて行くため。

第2回部会

アンケート調査を基に協議

調査結果を基に、児童虐待防止法、児童福祉法、DV法上の児童虐待の定義とのすり合わせを行い、「子どもの虐待」とは何かを確認し合い共有化した。

- ・**身体的虐待** 児童の身体に外傷が生じるおそれのある暴行を加えること。
- ・**性的虐待** 児童にわいせつな行為をすること又は児童をしてわいせつな行為をさせること。
- ・**ネグレクト** 児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置、保護者以外の同居人による身体的虐待や性的虐待の放置その他の保護者としての監護を著しく怠ること。
- ・**心理的虐待** 児童に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応、児童が同居する家庭における配偶者(婚姻の有無に関わらず)に対する暴力(配偶者の身体に対する不法な攻撃であって生命又は身体に危害を及ぼすもの及びこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動をいう。)その他の児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。

虐待がどのような原因で生じるのか話し合い、どのような範囲の課題を部会で協議し、深めて提案につなげていくかを議論

緊急性の高い、極めて深刻な状況にある被虐待子どもや家庭への支援 専門機関・関係機関のネットワークの体制強化が大切

虐待に至る前の子どもや家庭への支援

区民ひとりひとりの目線から取り組んでいけるのはこの課題では・・・？

第2回・全体会

第2回次世代育成協議会 全体の意見

1 親子への支援策の充実・周知の大切さ

2 家庭を孤立させないかわりの大切さ

孤立した家庭をつくらぬような働きかけ、積極的に家庭に対してかかわること（アウトリーチ）について検討が必要。

3 緊急度の高い虐待への対応・虐待に至る前の対応

子どもの虐待の中で、緊急度が高いシリアスな虐待に対しては、これはそれぞれの専門機関に対応を任せべきであろう。

それに対して、当初の目的である地域の役割という形で考えるとすれば、虐待に至る前の子どもや家庭にできる支援、いわば予防的な措置というレベルで地域が積極的に関与できることを考えるべきではないだろうか。そのレベルであれば、区民一人ひとりの目線から、地域、あるいは一人ひとりのレベルで取組んでいけるのではないだろうか。

4 監視し合うのではなく温かいまなざしで

区民がお互いに監視し合うというような態勢づくりになることを避けながら、温かいまなざしで予防的な措置ができるような、具体の提言ができればいいのではないかと。

5 ごく普通の生活を送っている家庭への支援

大切なのは、虐待に至る前の、ごく日常的には普通の生活をしていると思われる家庭への支援体制であろう。

6 いくつかの時期に応じた支援体制・情報提供の必要性

幾つかの時期に分けながら、その時々に必要な支援体制、情報が必要。

妊娠がわかってから出産に至る前のこの出産前の支援

産まれて間もない、まだ子どもの方から親に、保護者に対して社会的な反応をしない、まだかわいらしさというものが実感できない大変不安定な時期への支援

子どもとの関係ができてから、2歳ごろまでの、幼稚園やあるいは他の方々といろいろかかわる場のない、時期の支援

保育所、幼稚園等、家庭以外のところに何らかの形で所属をしている時期の支援

小学校前半、後半、中学以降の思春期

7 子育て支援者の養成とネットワーク化

8 ネットワークを生かすための人材育成・活用

ネットワークを有効に生かすために重要なもの以下の3つの部分だと思う。

人材育成 育成した人材を生かす仕組み それを活性化させるための財政投入

9 たくさんの情報の生かし方への課題

10 精神的な疾患を持つ親への対応と一般的な家庭への対応

11 虐待の予防の部分にどう対応するのかという視点

12 相談するアクションが取れない方に対するアプローチ

相談の場所をつくることも重要だが、相談するアクションがとれない人に対して、どのようなアプローチをするのかということも大きな課題。

13 ホームスタート（イギリス）の例

14 区民ボランティアの活用

新宿区民の中には、何とかしたいという思いを持っている人がたくさんいると思う。いかにそのボランティアの人たちが、クオリティを持って、また認知もされながらアプローチをしていけるのかという環境づくりというのが、一番行政として最も必要とこころだろう。

第3回部会

様々な取り組み事例の報告

他の自治体の取り組み

世田谷区

- ・産前・産後プロジェクト(さんさんサポート)・・・産前からのヘルパーによる家庭訪問支援
- ・学生ボランティア派遣事業・・・家庭訪問による学習支援に関する学生ボランティアの活用
荒川区
- ・みんなの実家プロジェクト「35(産後)サポネットinあらかわ」・・・NPO法人、学生ボランティアの活用
訪問支援 一時預り
八王子市
- ・子育て応援団(Beeネット)・・・町の人達の力を様々な得意分野に応じて活かす子育て支援
ホームスタート・・・イギリスから始まった国際的なアウトリーチの取り組み事例・無償ボランティアによる家庭訪問支援

これまでの議論及び事例の報告等を基に協議

1 要保護児童の洗い出さずその前の予防を

大切なのは、要保護児童を区民の中から洗い出すという体制をつくるのではなく、いかにその前で食い止めるかである。緊急性のある人は専門家に任せなければならない。

2 産前からの支援を

赤ちゃんがお腹にいる産前の段階で、何らかの形で、その地域の保育園・保健師なども含めてできることがないだろうか。

3 活動の核となる人材確保

継続性と人を担保することが支援のためには大切。学校にとっても地域と一緒に手をつないでやることが重要。大学生をはじめ、若い中学生、高校生たちも含め、違った世代のかかわりもできるし、その関わった子どもたちがまた次の世代につながる。

4 地域に根ざした方々の気持ちの高まり・地域全体を見ること

民生委員、PTA等の地域に根ざした活動をしている人たちの力を借りることも大切。その中からいろいろなシステムができていき、地域の中全体で取り組めることが望ましい。地域の中のボランティアにしても、やはりすべての人がある程度の使命とか義務という気持ちや意識を持った人が集まって、それなりの行動をしていくということがまず大事ではないか。

5 小さな言葉・つながりからの始まり

あいさつや、一つ一つの小さな言葉やつながりが、いろいろな波及している問題を解決していく1つのきっかけになってくるのではないか。

6 日常的な取り組みから・・・

日常的に普通の子どもに対して何かかかわりを持っていくことが、結果的にその防止に供するかもしれないくらいでいいのではないか。大きな効果を最初からねらわず、効果がないかもしれないけれどもやってみることが、結局、家庭が孤立しないで済むことにつながるかもしれない。それが行政、地域でできることではないか。我々は問題児を探すことに特化せず、何かもう少し気軽に肩の荷をおろして、地域でいろいろなことができるという自由度も増していけるのではないか。

これから
来年度に向けて

部会で協議・提案したいこと

- 子どもの虐待防止のために何が地域できるのか？
- 行政の役割等に関する期待される仕組み・機能は？
- 地域の各機関ができることは？
- 区民一人ひとりができることは？
- 地域で協力し合っていることは？